専門演習　　堀田 正央

授業概要

専門演習ではグループ毎に自由にテーマを選択し、研究を実際に協同して行いながら、1.文献検索等の情報収集方法、2.保育・幼児教育分野に適した社会調査法、3.学術論文および報告書の作成方法、4.プレゼンテーションの方法等から、卒業論文作成に必要な方法論を体系的に学んで行く。また、その過程における文献レビューやディスカッション等を通じて、興味を持っている分野について科学的な視点で改めて向き合うことで、より具体的なテーマを発見し、卒業論文演習へ繋げていくことを目的とする。

授業計画

第１回	オリエンテーション	第 16 回 ～ 第 19 回	定性的調査の講義と演習：グループインタビューをしてみよう！
第２回 ～ 第３回	興味がある分野やテーマの確認(現状で把握している情報に対する考察)	第 20 回 ～ 第 21 回	データ解析の方法(文章のまとめ方、グラフや表の書き方)
第４回 ～ 第５回	文献の検索方法および読み方	第 22 回 ～ 第 24 回	全体研究報告書の作成とプレゼンテーション
第６回 ～ 第７回	定量的調査方法が用いられた文献レビューとディスカッション	第 25 回 ～ 第 27 回	卒業論文に向けた研究計画の立案
第８回 ～ 第９回	定性的調査方法が用いられた文献レビューとディスカッション	第 28 回 ～ 第 29 回	研究計画の発表
第 10 回 ～ 第 14 回	定量的調査の講義と演習:アンケートをしてみよう！	第 30 回	秋期まとめ
第 15 回	春期まとめ		

到達目標

幼児教育分野における科学的なリテラシーを涵養しながら、卒業論文にむけたテーマを発見し、研究計画を立案する。

履修上の注意

・討論・演習において主体的に取り組める学生の履修を望む。
・原則として毎回出席すること。遅刻・欠席の場合は都度対処するので必ず連絡すること。
・授業内における一人ひとりの発言は貴重な情報である。どの様な内容であっても互いに否定的に捉えないことをルールとする。
・文献レビューの準備等、授業外での課題にも積極的に取り組むこと。

予習・復習

事業時間外での課題を複数回課す。

評価方法

出席、講義内の討論における積極性、文献レビュー等の課題から総合的に判断する

テキスト

特に指定しない。必要となる文献等については適宜授業内で告知する。

専門演習　　尾形 和男

授業概要

本演習は卒業論文作成のための準備段階として位置づけられる。取り扱う内容は、子ども(青年も含む)の種々の心理的変化や問題そのものについて、家庭や教育現場などの環境との関連性を心理学的視点に基づいて調べるなど問題の解明を進めると同時に実践的に役立てようとするものである。関連する内容について下調べとグループディスカッションなどを通して、各自が関心を持ち取り組みたいと思うことを卒論のテーマとして自由に選定していく。それと並行して各自のテーマの課題を具体的に調べ明らかにするために、調査、文献収集、学術論文収集、フィールドワーク、など心理学的な手法を有効に使用する方法についても理解を深めながら卒業論文作成のための基礎作りを進める。

【過去の卒業論文のテーマ例】

1.子どもの成長・発達と父親の役割　2. これから求められる父親像　3.学生の見る夫婦関係と結婚観　4.母親の育児ストレスと子どもの発達　5.不登校はなぜ生じるのか　6.叱ることと「教育」の両立をめぐって―幼児・児童を対象として―　7.アンパンマンはなぜ子どもに人気があるのか　8.家族関係が子どもの自尊感情に与える影響について　9.青年の自尊感情と児童期の親子関係　10.児童虐待の現状と要因　11.両親の不仲が青年期の自我同一性に与える影響　12.大学生の恋愛観・結婚観から見た理想の夫婦像と家庭像　13.幼少期の親子関係・成人の愛着スタイル・感情調節との関係　14.大学生におけるアダルト・チルドレンが求める他者への期待と心理的な関係　等

授業計画

第 1 回	ガイダンス	第 16 回	ガイダンス
第 2 回	子どもの理解に向けて	第 17 回 ～ 第 20 回	調査や文献などによる卒業論文の書き方 ・データ収集、解析、まとめ ・表・グラフの作成方法 ・文献の記載方法と生かし方
第 3 回	子どもの心理的発達と親・家庭の影響		
第 4 回 ～ 第 6 回	父親と家族 ・子育て環境の問題(育児ストレス) ・夫婦関係・家庭・子どもの発達	第 21 回 ～ 第 23 回	研究成果プレゼンテーション
第 7 回 ～ 第 9 回	家庭と家族成員 ・子どもの精神発達・青年の自尊感情 ・児童虐待・青年の結婚観・自我同一性	第 24 回 ～ 第 26 回	テーマの検討 研究計画の検討と立案
第 10 回	・不登校・親自身の成長・学校との連携		
第 11 回	保育・教育現場の先生方の抱える問題		
第 12 回	卒業論文の進め方・方法についての説明	第 27 回 ～ 第 29 回	研究計画の発表
第 13 回	卒業論文の進め方・方法についての検討		
第 14 回	関連文献の収集方法		
第 15 回	学外授業を通してのまとめ	第 30 回	まとめ

到達目標

1. 子ども(青年も含む)の成長・発達に及ぼす父親と母親、夫婦関係、家族の影響について理解を深める。
2. 保育・教育者として家庭を含めた環境の重要性について理解を深め、教育の可能性について視点を広げる。同時に子どもへの見方と関わり方を広げる。
3. 自己の取り組む卒論の位置づけを明確にする。
4. 卒論の構成と見通しを明確にする。

履修上の注意

1.関心のあることを更に自分で調べ、理解を深めるように積極的に参加すること。
2.毎回行われる内容についてわからないことがあるときは、その場で質問するように。
3.積極的な関心と責任を持って参加すること。

予習・復習

事前に目を通し場合によっては調べること。また、得られた資料は整理し視点を明確にしてほしい。

評価方法

演習への取り組み(積極性)、プレゼンテーションなどを加味して総合的に評価する。

テキスト

特に指定しないが、必要に応じて紹介する。

専門演習　　坂田 知子

授業概要

本ゼミナールでは、「子どもの健康」をキーワードとして、卒業論文を書くための研究を進めていきます。また、同時に保育に関する基本的な技術、能力を高め、実習、就職へとつなげていくことのできる能力を身につけていくことを目的とした演習を展開していく予定です。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	オリエンテーション
第 2 回	レポート①～作成	第 17 回	レポート③～作成
第 3 回	レポート①～発表	第 18 回	レポート③～発表
第 4 回	レポート①～発表	第 19 回	レポート③～発表
第 5 回	レポート②～作成	第 20 回	研究テーマ①
第 6 回	レポート②～発表	第 21 回	研究テーマ②
第 7 回	レポート②～発表	第 22 回	文献の探し方①
第 8 回	保育実践研究①	第 23 回	文献の探し方②
第 9 回	保育実践研究②	第 24 回	卒論研究①
第 10 回	保育実践研究③	第 25 回	卒論研究②
第 11 回	保育実践研究④	第 26 回	卒論研究③
第 12 回	保育実践研究⑤	第 27 回	卒論研究④
第 13 回	保育実践研究⑥	第 28 回	卒論研究⑤
第 14 回	保育実践研究⑦	第 29 回	研究結果発表
第 15 回	まとめ	第 30 回	まとめ

到達目標

・グループで協力しながら、課題に取り組むことができる。
・卒業論文のテーマを決めることができる。

履修上の注意

グループ学習、発表などがあるので、協調性が必要となります。
発表のための練習等により、時間外での活動が必要になってくる可能性があります。その際にも、「協調性を最重視し、アルバイトなど自己都合をできる限り変更することができる学生の履修を望みます。

① 卒業論文の研究テーマは、私の研究分野（体育学ー発育発達）を中心とした内容に限られます。ある程度、卒論テーマをイメージした上で、ゼミを選択するようにしてください。
② パソコンを使った授業を行います。

基本的に授業内で課題を指示します。授業内で終わらなかった課題については、復習をかねて授業時間外で学習してもらいます。

※コロナの流行状況によりますが、ゼミ合宿や保育所での学外研修を行うことがあります。
実施することになれば、日程を調整しますので、必ず参加してください。
また、費用がかかりますので、準備をしてください。

予習・復習

事前に配布した資料を読んでくる。また、復習用の課題を出すので、次週までに提出する。

評価方法

発表内容、研究内容（80%）と意欲的に学ぼうとする態度（20%）を総合的に評価します。

テキスト

特に、指定しない。

専門演習　　長友 大幸

授業概要

教育の現場では，植物園や動物園，科学館などの社会教育施設の利用を伴う活動が近年多く見られる。その際，教師はこれらの施設の学習プログラムを単にそのまま利用するのではなく，十分な事前学習と周到な計画・立案を行った上で依頼する必要がある。本演習の前半は，こうした観点から，県内および近県の社会教育施設等を取り上げ，理科教育・環境教育に関連した学習プログラムを実際に作成・提案することを通して，将来的な各種教育現場での実践力を身につけることを目標とする。

後半は，理科教育・環境教育に関する最新の情報を得る目的から，学会誌や専門書の輪読，科学実験を行う。これらを通して，さまざまな理科教育・環境教育分野の潮流と諸問題について検討を行い，卒業論文の土台づくりとしたい。

授業計画

第１回	前半オリエンテーション	第 16 回	後半オリエンテーション
第２回	環境と人間	第 17 回	理科教育・環境教育論文とは，発表の順番等の決定
第３回	理科教育・環境教育とは		
第４回	環境保全・環境創造と理科教育・環境教育	第 18 回	発表の技法，資料の作り方
第５回～第６回	学校教育現場における環境教育 ※学外活動	第 19 回～第 29 回	論文紹介・解説のプレゼンテーションと討議，卒論にむけて
第７回～第８回	社会教育施設の見学のための準備，計画		
第９回～第 10 回	社会教育施設の見学，資料収集 ※学外活動		
第 11 回～第 12 回	社会教育施設を利用した学習プログラムの作成		
第 13 回～第 14 回	学習プログラム提案のプレゼンテーションと討議		
第 15 回	前半まとめ	第 30 回	後半まとめ

到達目標

・社会教育施設等を用いた理科教育・環境教育に関連する学習プログラムの作成・提案を行うことができる。
・学術論文の内容や構成について要旨を作成して説明することができる。
・卒業論文のテーマの方向性を決定できる。

履修上の注意

本演習は，４ 年生の卒業論文につながるものであるため，卒業論文を理科や環境教育に係わる内容で作成しようという学生であること。

授業を土日に振り替えて，社会教育施設や小中学校の授業観察に行く予定である。したがって、指定した校外学習日に必ず出席すること。

班ごとの活動や個人発表が多くなるので，欠席しないことが前提になる。遅刻３回で欠席１回として扱う。また，20 分以上の遅刻は欠席として扱う。

予習復習

本演習の単位修得には，プレゼンテーションや個人レポート作成のために授業以外の自主学習（予習）が必要となる。また，卒論に向けた活動ともなるので、授業内で得た知識を復習することも必要となる。

評価方法

授業中の態度や参加状況（３０%），プレゼンテーションへの取り組みと発表内容（４０%），個人レポートなどの提出物（３０%）によって総合的に判断する。

自身のプレゼンテーションを欠席した場合，授業に無断で欠席した場合は評価の対象とはしないので十分注意すること。

テキスト

適宜印刷資料を配付する。

専門演習　　増南 太志

授業概要

子どもの特徴に合わせた柔軟な支援や発達援助の知識・技能を身に付けるため、「子どもの行動に影響する心理特性とそれに合わせた関わり」「障害や虐待などの事情により特別な配慮が必要な子どもの理解と支援」などを中心としつつ各自の考えていきたいテーマを検討していきます。専門演習では、ゼミのテーマについてディカッション等により学習しながら、興味のあるテーマを探っていきます。また、卒業論文作成に必要な技能（情報収集の方法、データの獲得方法、論文のまとめ方、プレゼンテーションの方法など）の獲得を目指します。過去の卒業論文では、次のようなテーマがありました。

【テーマの例】
・発達障害児・者との接触経験の有無が発達障害のイメージにどのように関連しているか
・子どものヒヤリハット場面における大学生の重大さの認識と対策について
・大学生における保育者効力感が子どものやる気を促す関わり方に及ぼす影響
・自己主張・自己抑制と幼児期の癇癪の関係
・保育園・幼稚園での気になる子／障害児への対応について

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	春期の振り返り
第 2 回	研究の進め方	第 17 回	研究法の理解（質問紙など）①
第 3 回	子どもの心理発達の理解①	第 18 回	研究法の理解（文献調査など）②
第 4 回	子どもの心理発達の理解②	第 19 回	研究法の理解（その他）③
第 5 回	障害等がある子ども①	第 20 回	研究テーマの検討①
第 6 回	障害等がある子ども②	第 21 回	研究テーマの検討②
第 7 回	配慮が必要な他の子ども①	第 22 回	文献収集と情報整理①
第 8 回	配慮が必要な他の子ども②	第 23 回	文献収集と情報整理②
第 9 回	学習した内容のまとめ①	第 24 回	文献収集と情報整理③
第 10 回	学習した内容のまとめ②	第 25 回	研究方法の検討①
第 11 回	テーマ探し、文献収集①	第 26 回	研究方法の検討②
第 12 回	テーマ探し、文献収集②	第 27 回	研究方法の検討③
第 13 回	ディスカッション①	第 28 回	卒業研究の構想発表①
第 14 回	ディスカッション②	第 29 回	卒業研究の構想発表②
第 15 回	まとめ	第 30 回	まとめ

到達目標

子どもの心理特性や、障害や虐待などの事情により特別な配慮が必要な子どもの特性を踏まえた保育・教育を考えられる。人の学習や行動について科学的に考える視点を持てる。

履修上の注意

・協同学習やディスカッションなどを行うため、他者との関係を良好にするよう努めること。
・資料作成にはパソコンを使用する。オフィス系ソフト（文書作成、表計算、プレゼンテーション）、インターネット検索などのスキルを身に付けるよう努めること。
・遅刻３回で欠席１回として扱う。また、遅刻・欠席の場合は連絡を入れること。
・施設見学などを行う場合がある。

予習・復習

調査や発表準備・練習のために授業時間外で自主学習が必要である。

評価方法

授業中の態度（２０％）、研究発表への取り組み（４０％）、レポートなどの提出物（４０％）によって総合的に判断する。

テキスト

適宜資料を配布する。

専門演習　　三浦 正雄

授業概要

初等教育・幼児教育・保育において必ず身につけるべき童話・昔話の物語（絵本）についての卒業論文を書く指導を行います。また、理解を助けるために様々な書籍を読み、研究のための教養を養う指導を行います。

授業は研究発表を中心に行い、それをもとに意見交換・討論・調査などを行い、これに基づいて指導します。図書館・博物館などの外部施設見学も行います。

卒業論文を書く力を養うために、論作文の指導を行い、早いうちから各自に課題を出します。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション	第 16 回	第二次卒論仮テーマの決定
第 2 回	第一次仮卒論テーマの決定	第 17 回	論作文指導４　章分け
第 3 回	論作文指導１　モチーフ	第 18 回	論作文指導５　概要
第 4 回	論作文指導２　例示	第 19 回	論作文指導６　具体性
第 5 回	論作文指導３　展開	第 20 回	研究の進め方１　まとめ方
第 6 回	研究の進め方１　文献	第 21 回	研究の進め方２　考察
第 7 回	研究の進め方２　ネット文献	第 22 回	研究の進め方３　比較
第 8 回	研究の進め方３　整理法	第 23 回	研究発表５（日本の童話）
第 9 回	研究発表１（世界の童話）	第 24 回	研究発表６（日本の昔話）
第 10 回	研究発表２（世界の昔話）	第 25 回	研究発表７（日本の伝記）
第 11 回	研究発表３（世界の伝記）	第 26 回	研究発表８（日本の実話）
第 12 回	研究発表４（世界の実話）	第 27 回	研究発表９（絵本）
第 13 回	施設見学１（国際子ども図書館）	第 28 回	施設見学４（東京子ども図書館）
第 14 回	施設見学２（相田みつを美術館）	第 29 回	施設見学５（アンデルセン公園）
第 15 回	施設見学３（ちひろ美術館）	第 30 回	施設見学６（絵本展）

到達目標

（春期）第一次仮卒業論文テーマによる論作文指導と研究調査、発表の練習をへて、秋期授業開始時に自分に適し、よりしぼった第二次仮卒論テーマを決定する力をつけます。

（秋期）第二次仮卒業論文テーマによる論作文指導と研究調査、発表の練習をへて、4 年生卒業論文授業開始時に、自身にとって最適で意欲がわく卒業論文テーマが決定できる力をつけます。

同時に、論作文の指導を通して、文章力・国語力の養成も行います。

履修上の注意

授業態度、授業参加度を重視します。授業中に、研究発表を行い、その内容も評価に含めます。提出物がある時は、提出物も評価に含めます。童話・昔話（絵本）を中心に多数の様々な書籍を読み研究発表を行うので、地道にコツコツと努力できる人に向いています。無断で発表を欠席した場合は、単位を放棄したものとみなします。

＜発表例＞ある童話・昔話について、どのような作品（ストーリー等）か、発表者はどのように考えるか、これまでどのような評価を得てきたか、教育の現場ではどのように読まれてきたか、どのように絵本化されているか、最もすぐれた絵本はどれか、子どもはどのように受容するか、などです。

これ以外に、卒論準備と文章力・国語力養成のために、各人に適した課題を出します。

予習・復習

研究発表を中心に行いますので、調査したり考察したりまとめたりする作業は、授業内だけでは不充分ですので、事前の自主学習が必要となります。

また、研究発表の際に提示された問題点等を解決するための復習も必要となります。

評価方法

授業態度、授業参加度、研究発表、提出物（レポート等）

研究発表 40%　レポート 40%　受講態度 20%

テキスト

教材・参考書等は、授業中に指示します。

専門演習　　森本 昭宏

授業概要

この演習は「卒業研究」の前段階として，造形表現の発達段階と特性を理解するとともに，子どもの造形活動の指導・支援に必要な基礎的知識と技能を幅広く身に付けることを目指す。また保育･教育の造形指導者として、子どもの要求にふさわしい援助を与えるための指導の研究と，豊かな表現を促すための材料･用具等の取り扱いについて，製作体験を通して学習していく。

授業計画

第 1 回	材料経験の内容と方法 ①平面表現（素描，水彩，絵本づくり）	第 16 回	創造力を育てる遊具 ・仕掛けのあるおもちゃ（木のおもちゃ，玩具など） ・大型遊具のデザイン
第 2 回		第 17 回	
第 3 回		第 18 回	
第 4 回	②立体表現（紙工作、粘土型取り運動会メダルなど）	第 19 回	
第 5 回		第 20 回	マルチメディアを用いた映像表現（クレイアニメ，ライトファンタジー）
第 6 回	学外活動―美術館鑑賞―	第 21 回	
第 7 回	材料体験の内容と方法 ③伝承の遊び（飛び出すしかけ絵本，折り紙，お便りカード）	第 22 回	
第 8 回		第 23 回	海外の子どもの造形表現（欧州南米）と鑑賞教育（障がい者ｱｰﾄ他）
第 9 回		第 24 回	
第 10 回	幼･保･小学校の連携と総合的な活動（紙芝居，パネルシアター，ペープサート，影絵など）	第 25 回	学外活動：親子を対象とした造形ワークショップ（造形遊びの発展）
第 11 回		第 26 回	
第 12 回		第 27 回	研究課題：模擬保育・指導計画の設定→製作活動の導入→展開→まとめ，評価と反省会
第 13 回	乳幼児～小学校児童画の見方 ―発達段階による様々な表現―	第 28 回	
第 14 回		第 29 回	
第 15 回	課題発表	第 30 回	

※学芸員による学校鑑賞教育を聴講。公共施設にて親子を対象としたﾜｰｸｼｮｯﾌﾟの学外活動を予定中。

到達目標

・材料をもとにした造形活動を楽しみ豊かな発想をするなどして，自らの造形表現を高める。
・教育・保育者としての造形活動を指導・支援する為の知識や，基礎となる技能を習得する。
・研究テーマを設定して，継続的（次年度４年次）に研究計画を遂行する能力を養う。

履修上の注意

課題に対して主体的な取り組みを心掛け，地道な努力の積み重ねを目指す。手先の器用さよりもむしろ時間を掛けた丁寧さと根気強さが求められる。教員・学生同士との対話的で深い学びを目指す。

予習・復習

造形の実践力を高めるために，公立美術館・公共施設等を利用したワークショップの企画参加を検討中。
ファシリテーター（促進者）として，子どもとの関わりを持つ場面に積極的に参加することを望む。

評価方法

課題に取り組む態度，製作した作品の質と量（50%），ゼミ単位でのワークショップ・ボランティア活動（30%），製作レポートの内容（20%）により評価する。

テキスト

・教科書名：保育・教育のための実践事例で理解するわかりやすい「表現」
・著 者 名：梅澤実・森本昭宏
・出版社名：創成社

専門演習　　川喜田 昌代

授業概要

乳幼児の保育・幼児教育について、保育の内容（カリキュラム）、保育の質の向上、子ども理解、乳児保育における配慮等の視点から、幼児教育・保育の在り方について考えていきます。

毎回、文献を仲間とともに読み、それについて議論をすることから、自分が研究したいテーマ（やりたいと思う卒論テーマ）を見つけていくことを目指します。

４年次の論文執筆に向け、必要な知識や態度やルールを確認していきます。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション　ゼミの進め方	第 16 回	研究の進め方
第 2 回	幼児教育・保育の課題	第 17 回	研究動機・目的を明らかにする
第 3 回	論文作成・研究をするための心得	第 18 回	研究課題の検討
第 4 回	記事検索と資料の調べ方	第 19 回	先行研究の調べ方
第 5 回	文献の読み解き方と報告のやり方	第 20 回	先行調査の調べ方
第 6 回	文献講読と議論①	第 21 回	参考文献リストの作成
第 7 回	文献講読と議論②	第 22 回	研究方法の検討
第 8 回	文献講読と議論③	第 23 回	分析方法の検討
第 9 回	文献講読と議論④	第 24 回	研究計画の報告①
第 10 回	文献講読と議論⑤	第 25 回	研究計画の報告②
第 11 回	文献講読と議論⑥	第 26 回	研究計画の報告③
第 12 回	グループディスカッション	第 27 回	研究計画の報告④
第 13 回	関心あるテーマについて①	第 28 回	研究計画の報告５
第 14 回	関心あるテーマについて②	第 29 回	全体討論
第 15 回	まとめ	第 30 回	４年次の卒論演習に向けて

到達目標

文献を読み解く力を身につける。
研究をすすめていくために必要な知識や態度やルールを身につける。
仲間と議論し、自らの考えを鍛える。
議論をとおして相手の考えを理解する。
自らの問題関心を深め、卒業論文のテーマを決める。

履修上の注意

報告や課題に積極的に取り組み、議論に活発に参加することが求める。
仲間の意見を尊重し、自分の意見もしっかりと伝えるコミュニケーション能力が求める。
欠席は、原則として認めない。
後期は、特に自発的な姿勢が求められる。

予習・復習

適宜演習の機会は設けるが、自主的に教員採用試験問題にあたってみるとよい。
論作文や面接にあっても、知識なしには太刀打ちできないという事実を肝に銘じることが何よりも重要である。

評価方法

出欠の状況、授業態度、30%、ゼミでの報告態度や報告内容、議論への参加態度 30%、課題レポート提出 40%で、総合的に判断する。

テキスト

関心のあるテーマについて、必要な資料を配布する。

専門演習　　杉浦 浩美

授業概要

社会学、ジェンダー学の視点から、子どもをめぐるさまざまな問題に目を向け、アプローチしていきます。今年度の前期は木村草太編『子どもの人権をまもるために』という文献を取り上げ、「虐待」「貧困」「保育」「障害」「指導死」「親の離婚」「不登校」「里親制度」「LGBT」といった問題について各自が調べ報告し、ゼミ内で議論を重ねました。後期はそれらの作業をふまえて、それぞれが自分の卒論テーマを模索し決定し、研究計画書を作成しています。

なお、卒論ゼミで現４年生が取り組んでいる卒論タイトルは以下の通りです。
「多様な性を子どもたちにどう伝えるのか」「赤ちゃんポストについて考える」「ブラック校則について」「小学校におけるプログラミング教育の現状と課題」「デートＤＶと恋愛幻想」

授業計画

第 1 回	オリエンテーション　ゼミの進め方	第 16 回	研究の進め方
第 2 回	論文を執筆するための心得	第 17 回	問題関心のありか
第 3 回	研究を進めるための心得	第 18 回	研究課題の検討
第 4 回	記事検索と資料の調べ方	第 19 回	先行研究の調べ方
第 5 回	文献の読み解き方と報告のやり方	第 20 回	先行調査の調べ方
第 6 回	文献講読と議論１	第 21 回	参考文献リストの作成
第 7 回	文献講読と議論２	第 22 回	研究方法の検討
第 8 回	文献講読と議論３	第 23 回	分析方法の検討
第 9 回	文献講読と議論４	第 24 回	研究計画の報告１
第 10 回	文献講読と議論５	第 25 回	研究計画の報告２
第 11 回	文献講読と議論６	第 26 回	研究計画の報告３
第 12 回	グループディスカッション	第 27 回	研究計画の報告４
第 13 回	関心あるテーマへのアプローチ１	第 28 回	研究計画の報告５
第 14 回	関心あるテーマへのアプローチ２	第 29 回	全体討論
第 15 回	後期に向けて	第 30 回	４年次の卒論演習に向けて

到達目標

文献を読み解く力を身につける。
研究をすすめていくために必要な知識や態度、マナーやルールを身につける。
仲間と議論することで自らの考えを鍛える。
議論をとおして相手の考えを理解する。
自らの問題関心を深め、卒業論文のテーマを決める。

履修上の注意

報告や課題に積極的に取り組む態度が求められる。
議論に活発に参加することが求められる。
仲間の意見を尊重し、自分の意見もしっかりと伝えるコミュニケーション能力が求められる。

評価方法

出席は当然重要である。そのうえで、ゼミでの報告態度と報告内容（４０％）、議論への参加態度（３０％）、課題レポート（３０％）で、総合的に判断する。

テキスト

とりあげる文献については、ゼミ生と相談のうえ、初回のゼミで決める。

専門演習　　藤野 好美

授業概要

「貧困」「児童虐待」「ひとり親家庭」「ヤングケアラー」「ひきこもり」といった子どもと家族、若い世代におきている問題に着目し、どうすれば解決していけるか、またどうかかわっていけばについて考え、興味関心や問題意識を高めていく。春期は、近年の「子供若者白書」から興味のあるテーマを選び発表する。秋期では卒業論文の執筆にむけて、研究テーマの設定、研究テーマに関連する文献・資料を収集する、先行研究に目を通す、研究計画の作成といったプロセスに取り組むとともに、研究方法についても学んでいくこととする。

授業計画

第 1 回	春期オリエンテーション	第 16 回	秋期オリエンテーション
第 2 回	「子供若者白書」について	第 17 回	研究テーマについて
第 3 回	「子供若者白書」からテーマを選ぶ	第 18 回	文献・資料収集
第 4 回	発表・グループディスカッション	第 19 回	文献・資料収集
第 5 回	発表・グループディスカッション	第 20 回	研究方法について①アンケート
第 6 回	発表・グループディスカッション	第 21 回	研究方法について②インタビュー
第 7 回	発表・グループディスカッション	第 22 回	研究方法について③インタビュー
第 8 回	発表・グループディスカッション	第 23 回	研究方法について④観察
第 9 回	発表・グループディスカッション	第 24 回	研究方法について⑤観察
第 10 回	「子どもの貧困について」発表	第 25 回	先行研究をまとめる
第 11 回	「ひとり親家庭について」発表	第 26 回	先行研究をまとめる
第 12 回	「児童虐待について」発表	第 27 回	研究計画を作成する
第 13 回	「ひきこもりについて」発表	第 28 回	研究計画を作成する
第 14 回	「ヤングケアラーについて」発表	第 29 回	研究計画を作成する
第 15 回	春期のまとめ	第 30 回	秋期のまとめ

到達目標

・子どもや若い世代に起きている問題への関心を高め、解決に向けての取り組みや支援について考える力をつけていく。
・卒業論文作成にむけて、その過程を理解し、研究計画を作成する。
・研究方法について理解する。

履修上の注意

・子どもや若い世代に起きている問題やそれらに対する支援について、興味・関心を持っていること
・卒業論文のテーマについては、上記の内容や近いところで選んでもらうことになるので、その心積りをしておくこと
・発表やグループディスカッションには、積極的に取り組むこと
・日頃から新聞やネットニュースを読むようにし、社会の動きを把握するようにしておく

予習・復習

発表するにあたって資料作成等は授業時間外に行うことになり、それは自己学習であり予習となる。
復習については、随時指示する。

評価方法

発表の内容・充実度40%、期末レポート 40%、授業への参加度（発言回数、内容など）20%をふまえ、総合的に判断する。

テキスト

・「子供若者白書」（内閣府）
・その他、必要に応じて指示する。

専門演習　　吉野 剛弘

授業概要

この演習では、小学校教員を志望する学生を対象に、さまざまな学習を進めることにする。春期から秋期の前半にかけては教育時事に関する学習を進める。この分野は論作文・面接でも問われやすいので、適宜演習をはさむ。その学習が済んだ後は、履修者の状況に応じて、教職教養、専門教養（小学校全科）の中から必要な内容を扱うことにする。

4 年次には卒業論文を提出してもらう必要があるが、4 年春期までは小学校教員採用試験に関する内容を中心に据え、ゼミの中で本格的に卒業論文に関する作業を進めるのは 4 年次の秋期とする。

授業計画

第 1 回	オリエンテーション（春期の進め方）	第 16 回	オリエンテーション（秋期の進め方）
第 2 回	第 3 次教育振興基本計画（1）	第 17 回	学校制度に関する答申
第 3 回	第 3 次教育振興基本計画（2）	第 18 回	教職員に関する答申
第 4 回	演習①-1	第 19 回	学校運営に関する答申
第 5 回	演習①-2	第 20 回	その他の重要答申
第 6 回	特別支援教育関係答申（1）	第 21 回	演習④-1
第 7 回	特別支援教育関係答申（2）	第 22 回	演習④-2
第 8 回	生徒指導関係調査	第 23 回	教職教養・専門教養に関する輪講（1）
第 9 回	演習②-1	第 24 回	教職教養・専門教養に関する輪講（2）
第 10 回	演習②-2	第 25 回	教職教養・専門教養に関する輪講（3）
第 11 回	2018・2019 年改訂学習指導要領	第 26 回	教職教養・専門教養に関する輪講（4）
第 12 回	全国学力・学習状況調査	第 27 回	教職教養・専門教養に関する輪講（5）
第 13 回	PISA・TIMSS	第 28 回	教職教養・専門教養に関する輪講（6）
第 14 回	演習③-1	第 29 回	教職教養・専門教養に関する輪講（7）
第 15 回	演習③-2	第 30 回	まとめ（卒業論文に向けて）

到達目標

・小学校教員採用試験に向けた学習を通して、小学校教員に必要な資質・能力を培う。
・卒業論文に向けた構想を構築する。

履修上の注意

・卒業論文に関する作業を 4 年次の秋期以降に本格化させるということは、それ相応の馬力が必要である。さらに、4 年秋期は、小学校の採用試験は全て終了しているが、幼稚園や保育所の就職活動のピークであることに注意すること。
・卒業論文に関する課題は、3 年次の春休みの宿題が最初となる（テーマを考えてくるという宿題を出す）。

予習・復習

・適宜演習の機会は設けるが、自主的に教員採用試験問題にあたってみるとよい。論作文や面接にあっても、知識なしには太刀打ちできないという事実を肝に銘じることが何よりも重要である。

評価方法

・授業内容の理解度（50%）、輪講における成果（50%）

テキスト

・教科書名：教職教養の要点理解（2022 年度版）
・著 者 名：時事通信出版局（編）
・出版社名：時事通信社
・出 版 年：2020 年

専門演習　　堀田 諭

授業概要

本演習は、卒業論文執筆に向けて研究の作法について学ぶことを目的とする。研究や学問とは、知の共有財産（公共財）を創り出すことである。つまり、一人だけ特定の情報について知っていても意味をなさない。誰かと共有して初めて学問知となる。自らの関心に沿って学問知を創り出すために、問いを見つけ、育てる作法や調査研究の作法、ゼミのメンバーと共に議論し高めていく作法、他者を説得する作法、自らの研究行為をふりかえりさらなる課題を見出す作法等について指導する。最終的には卒業論文という独特な世界をつくっていくことになるが、その過程はむしろゼミのメンバーや研究にかかわるその他の人々との協同作業である。

授業計画

第 1 回	イントロダクション	第 16 回	調査内容についての報告と共有①
第 2 回	教育学研究の位置づけと目的	第 17 回	調査内容についての報告と共有②
第 3 回	調査研究の特質と方法①調査とデータ	第 18 回	研究計画書の修正①問いを再設定する
第 4 回	調査研究の特質と方法②問いと方法論	第 19 回	研究計画書の修正②対象と方法の調整
第 5 回	文献報告①フィールドワーク（教材開発）1	第 20 回	研究計画書の修正③先行研究の再調査
第 6 回	文献報告②フィールドワーク（教材開発）2	第 21 回	大学図書館の活用①オンライン調査
第 7 回	研究計画書の作成①研究の問いと仮説	第 22 回	大学図書館の活用②他大学等の調査
第 8 回	文献報告③参与観察（授業研究）1	第 23 回	問いと先行研究の検討①
第 9 回	文献報告④参与観察（授業研究）2	第 24 回	問いと先行研究の検討②
第 10 回	研究計画書の作成②先行研究の調査法	第 25 回	問いと先行研究の検討③
第 11 回	文献報告⑤生活史（教師研究／歴史研究）1	第 26 回	口頭発表と質疑応答の作法
第 12 回	文献報告⑥生活史（教師研究／歴史研究）2	第 27 回	卒業論文構想の発表①
第 13 回	研究計画書の作成③研究の意義と限界	第 28 回	卒業論文構想の発表②
第 14 回	研究計画の発表と今後の課題の共有①	第 29 回	卒業論文構想の発表③
第 15 回	研究計画の発表と今後の課題の共有②	第 30 回	卒業論文執筆に向けて

到達目標

- 自ら関心をもった研究テーマについて、研究計画書を作成することができる。
- 文献購読や他者との議論を踏まえて、教育現象や社会現象に対する調査法について概観することができる。
- 文献報告や自らの研究テーマの発表を通して、他者と対話する作法を身につける。

履修上の注意

他者やテキストとの対話を通じて、自己の研究関心を明らかにしていきます。一人ひとりの関心や成長が異なることを前提としながら、ゼミ全体での学びや共有の時間を大切にしていきましょう。

なお、大学図書館や学外の施設での調査など教室外での調査の可能性も考慮しておいてください。

予習・復習

基本的には、文献報告や研究計画書に関する調査が予習および復習となります。

授業外の時間や夏季・冬季の時間を中心に、日々少しずつでも調査・研究を進めていきましょう。

評価方法

- 研究計画書：40%
- 報告や発表：40%
- 議論の作法や姿勢：20%

テキスト

テキストや購読文献は、初回の授業で決定していきます。なお、以下の文献を踏まえて議論していきます。

文献：上野千鶴子（2018).『情報生産者になる』ちくま新書.
岸政彦・石岡丈昇・丸山里美（2016).『質的社会調査の方法――他者の合理性の理解社会学』有斐閣ストゥディア.
やまだようこ・サトウタツヤ・能智正博他（2013).『質的心理学ハンドブック』新曜社.

その他の文献については、授業内で適宜紹介していきます。